

# 順正寺報第21号

## ウラボン法要御案内

初盆を迎えられるにあたって

⊗ご自宅のお内仏へ出向しての初盆供養

恒例により、初盆は七月上旬より繰り上げてお勤め申し上げております。

ご希望の方はご連絡ください。

⊗白張ちようちん一張を、デパート等で

求めの上、一日から十六日まで仏前に、

天井から吊して頂き十六日に寺へお納め

下さい。

⊗迎え火・送り火は適当にお考えの上、焚

いても焚かなくともどちらでも結構です。

⊗精霊棚やナス・キュウリに箸の足を付けて飾るなど不必要です。

仏具はおみがきをし、花・供物を平生より

丁寧な荘厳すれば十分です。

以上

死は娑婆しやばの常とは知りながら、自身に

直面された時、愛別離苦の悲しみ、更に

「誰モ代ル者ナキ一人」の痛み、苦悩を

体感なされ、一声の称名念佛へと御心向

けの御事と拝し上げます。

さて、当山・順正寺では、次頁の通り、

送り盆の十六日夜、盂蘭盆（ウラボン）

総経供養の一座をお勤め申し上げます。

叫喚きょうかん・焦熱しやうねつにも似た日暮らしのさなか、

浄土の清風に触れ、ひとときを御先祖の

徳と仏恩の深きことに思いをいたされる

様念じつつ御案内申し上げます。

住職

ウラボン総経経供養の

詳しい御案内は次の頁です。

『ウラボン会』 総供養

日時 七月十六日（日）

午後七時ヨリ

場所 順正寺本堂

総経供養一座

法話一席

講師

京都  
即成寺

江口 貫裕師

以上

万障繰り合わせの上、御参詣下さります様、お願い致します。

# 探訪 1995 夏

副住職 江口 貫正

そもそも、普段、何を考えているかと言うと、ろくな事は考えていないわけで、『この不景気に、この世紀末に！』と言われるぐらい、非生産的な事を考えているわけです。どれぐらい、ろくでもないかと言うと、本人がこうして嬉んでいるぐらいなわけで、こりゃ、相当ろくでもない。

事の発端は、去年の暮れ、大泉のあるお宅にお邪魔した帰り、フと目に止まった小さな森のようなもの。『あっ！あれは』……ここで思考は20数年フィードバック。小学校4年生ぐらいにもどる。それは、もうとっくに無くなってしまったと思っていた『芝富士』（正確には、というか、一般的には、「富士塚」。信仰のある人は「お富士さん」と呼ぶ）。小学生の頃にチャリンコ転がしてよく登ったものです。それがあったのだ。宅地開発で周りの景色もすっかり変わり、だいたい自分の家からの道筋も途中に広い道ができたりしてすっか

り分からなくなっていたのでした。何と、20数年振りの再会でありんす。こんな小さかったかな。子供の頃は結構大きかったのに。

ここで富士塚を御存じない方の為に簡単に説明します。だいたい江戸時代末期から富士山に上る「富士信仰：富士講」が盛んになります。そして、何時の頃からか、自宅に富士山を造ってしまう人が出てきます。すると、それまで皆で登っていた富士参りも、代表数人だけにして、あとの人は、その「お手製富士山」にお参りするわけです。それが、あっという間に都内に広がり、現在で五十近くの富士塚が残っています。富士塚は、自宅に造るお大尽もいましたが、神社の境内や空き地に近所の人が造ったりしました。高さは大きいもので10mぐらい、そして2mぐらいのものまで様々です。唯、素人が造った土の山ですから、地震でかなり潰れたようです。中には、古墳を勝手に改造したものもあるようです。・・・簡単に説明しましたが、本当に簡単なので、富士塚を研究している人が見たら怒るでしょう。

さて、話は戻って、大泉の富士塚ですが、これに出遇った途端、思い出したのは、小学校の頃、毎朝見ていたNHKの「カメラ・リポート」。何故こんな番組の名を覚えているかと言うと、小学生の私は、「カメラ・リポート」の意味が解らず、『カメラリ、ポート』だと思っていた。もっと訳が解らないけれど、やっぱり「カメラリ」と言うのが気にいっていたようだ。この頃から頭の中がラリっていたという話もあるが…。

で、カメラ・リポートで「東京のお富士さん」というテーマであちこちの富士塚を映していたのを思い出したのだった。ここまで思い出してしまつと、20数年前沢山あつた富士塚は今はどうなつてしまったのだろうかと思うのは人情。早速、石神井図書館に調べに行くことになる。『石神井図書館』に「富士塚」に関する本があるかどうか。だいたい富士塚なんて本になるのかどうか。そんな事書く専門家の人がいるとは思えんしな。富士塚評論かなんて聞いた事無いし』と思いつつ、期待もせず石神井図書館に到着。目に止まったのは

『郷土資料室』の看板。あっ！もしかしたら。そーです、こーゆー所には、よくTVに出て来ちゃう、地元の事にやたらと詳しい「郷土史家」なんて人がいたりする。こりゃいい、とばかりに階段をトントントンと降りるってエとそこは地下一階。重たい戸をギィーとこじ開けると！そこにはっ！なんて訳はない。ガラスの明るい扉を開けると資料の索引。期待もせずに「富士・ふじ・フジ」：あつたッ。あつたよ、ありました。世の中には変わった人もいるもんで、富士講と富士塚なんて物をちゃんと調べて、資料にして残してくれてるなんて、いやぁ、世間は広いもんだねえ。

早速その本を借りることにする。するってえと、『ここに借りる本と借りる理由を記入してくれ』ってノートを渡される。記入ついでに、どんな人がこーゆー所にきているのか、興味本位にノートをめくると、驚いた事に、この本、結構借りてる人がいる。僅か半年の間に五人くらい。若いのは20才の学生から、60才のおじさんまで。『こんな暇なのは石神井広しといえども俺ぐれえのもんだ』

と自負していた私は、思わず謙虚となるのだった。さて、昭和五十二年の調査で富士塚は五十基ぐらい。今はバブルも弾け、もっと少なくなっているでしょう。これは実地調査に行くべきだ。そう思っている矢先に、池袋のデパートで古地図フェアをやっているのに出くわしてしまう。江戸時代から明治初期の日本地図8枚セットを思わず買ってしまう。私は仕事から車であちこちと移動する。気になるのは道の名前。いきなり旧中仙道が板橋にあたり、富士街道に青梅街道、甲州街道に五日市街道、方々に有る鎌倉街道。しかし今はみんな、片道三車線もある大きな道。じゃ、本当の昔の街道はどうなっているのだろう。又、宿場街はどうなっているのだろう。長年、『一度調べにゃならん』と聞いていました。

ここで、「おい、富士塚はどうなった。いきなり何を言ってるんだ」と御心配の貴方、あなたあなた。もう大丈夫。心配無用。なんとあの富士塚と旧街道がドッキング。私は自転車を買って、富士塚＋旧街道の調査を始めるのであった。何故自

転車かと言うと、これは話せば長くなる。が、今回、原稿を10枚書く様に言われているので、長くなくても構わないので書く。

ここ数年、私は演劇をやっている。唐突なのが、やっている。坊主仲間を集めて「道楽三昧洞（どうぎょうさんまいどう）」という劇団を造って世間様に迷惑がられているのさ。今年は、精も根も金も尽きたので、活動休止なのである。フと気付くと（フと気付く事にロクなことは無いように思う）『俺って趣味無いなあ』。これは困った事だ。芝居は道楽で趣味にはならん。かと言って、前にも書いたが、私は飽きっぽいし、整理整頓ができないのでコレクターやマニアにはなれないし：あー、なりたかったなあ、ジャズ愛聴家、天文マニアにカメラマニア。そこであれこれ考えて、『趣味をなんとかせんと老後に困る。このまま趣味の無い人生なんて人に笑われる。趣味を造ろう』で、始めはカメラに決定した。なんとなれば、私は石神井公園のボート漕がしたら日本一。『やっぱカメラだよねー』と思ったのだが、ボツ。日本

の河は急すぎるのさ。私はオートバイに乗っても、別に風に成りたいとは思わないし、ジェット・コースターに乗れば酔うし、のんびり本でも読みながらダラ〜と下れる川は日本には無い。こりゃいかん。そこで、『乗り物で、ゆっくりで、のんびりできて、体にもいいもの。あっ、チャリ、自転車だな、やっぱり』。こうして、私の趣味は自転車に決まったのである。

決まってしまうばこっちのもので、富士塚と旧街道を調べる予定で買った自転車だって、今じゃ、興味次第であちこちと、乗る日は、40 km、50 km 乗って喜んでる今日この頃です。

そんな訳で、ろくな事はないのですが、ろくな事無いついでに言わせてもらえば、最近、オウムで大騒ぎで、次から次へと犯罪が明るみになる。その都度、『何て事するんだ、お前らは！』と思う。

それはそれで犯罪なんだけど、少し考えないといかんの、そのオウムを造り出した日本ということ。現実に被害にあった人はいるわけで、それ

は被害者なのだが、TVを観ている人、コメントしてる人までも被害者となってしまう。被害者となってしまうことで、自分は善人になってしまおう。勸善懲悪時代劇じゃない、現実なんです。最近よく耳にする。「既成仏教々団は何をしているのか。もっとしっかりしろ！」と。

『しっかりしてるぜ！』

唯、考えて欲しいのは、麻原教団が何故あそこまで出来たか。マインド・コントロールを受けてようが、洗脳されてようが、信徒が動いたからだ。私は、青臭いと言われようが、組織と言う物を信用しない。国民が集まったものが国家で、信徒が集まったものが教団である。会社があって社員があるのか。ちがう。社員がいて会社は成立する。教団も然り。

では、現代の仏教信徒は残念ながら、この事が問題になるまで、宗教について真面目に考えた人は少なかったのではないだろうか。海外のジャーナリストは既に今回の事件と日本人の特性についてレポートをまとめている。日本のジャーナリス

トは事件の表面を追うだけか！悪戯に人道を叫ぶだけか！アメリカ人にしろイギリス人にしろ、青年期の一時期、『神』について悩む。これは、文系の人も理系の人も。そして、信仰を持つか、無神論を取るかを決める。我々はカッコだけで、やれ無神論だ、めんどくさいから無宗教だとやっている。

何故、オウムが人を寄せ付けたのか。未だに脱会しない者がいるのは。この事を真剣に考えないと、この後もオウムは続く。

何時もあちこちでいう事だが、宗教の本質は、『自身を歎くこと』だ。他に改邪を勧めることでもなければ、自身が善人に成る事でもない。

「本当の自分を見付けましょう」・・・あたかも今の自分が偽者で、どっかに本当の自分がいるような事を言う馬鹿がいる。朝起きて、飯食って、糞して、仕事して、人とぶつかって、泣いて、笑って、憎んで、喜んでる。それが本当の自分である。それ以外に自分なんてありはしない。それを認められない、外にもっといい自分があるんじゃないかと。

ないかと。

若しかしたらロクな生活じゃないけど、それを現実として受け止める。そこから始まるのじゃないか。社会が悪い、政治が悪い。でも、社会ってのは自分自身だし、政治家、代議士を選んだのは誰だ。オウムの創始者は麻原だけでも、オウムを造ってしまったのは我々ではないのか。単純なオウム批判は天に唾棄するようなものではないか。

てな具合に、前半のチャリンコも後半も、同じ時間に書いてる、この混沌さは面白い。

さて、明日(6/10)から二泊三日の上山奉仕。責任役員の河合さんと本山に行ってきます。

来年は、『順正寺上山奉仕団』を行ないたいと思っています。

みんな、京都に行きませう。

了

自分が自分である事に気付く事ができますか。簡単なことのようにでてとても難しいことなのです。それには何よりも先ず、自分の事を認めていなければならぬ。過去を含んで今をしっかり踏まえた上でね。過去がないのに今があるわけがないからね。それなのに妙にみんな浮き足だっている。『今を生きよう、明日を生きよう。』

そういうけれど、過去を見ずして何が未来だかね。たまに過去を見ると、『ああ、昔は良かったよ』なんて懐古主義の中で酔ってしまっている。ずっ

と、続いてきているんだな。懐かしい、綺麗な、楽しかった思い出だけが自分を造っているんじゃないっていうの。辛かった、汚い事、人を傷つけて生きてきたという事実も認められる？浮き足立っていると、自分がやたらといい人に見える。『あ、私はなんていい人なんですよ。慈悲深い人、人の痛みの解る人なのね。』まったく、他人を傷つけ、不快感を与えてしまっている自分を見ようもしない。指摘されると、烈火の如く怒り出す。そして、勝手に落ち込む。

質が悪いねこうなると。悲劇のヒーロー・ヒロインになっちゃって、そんな自分に酔っているんだよな。もっとしっかり自分のすべてを見詰めた上で、汚い所、綺麗な所、すべてが自分なんだと認めなきゃ。そういう自分を好きになっていくぐらの努力ぐらいしてもいいと思う。好きになる以上は責任も背負い込むことになる。それが嫌だから、目を背ける。そこに、『あなたも変われますよ』なんてのが手ぐすねひいて寄ってくる。危ないぞー。畏にはまる。此の事についてはもっと言いたいけど、今日の所はここまで。又あいましよ。もっと、もっと、私の考えはどうにもならないくらい、メチャクチャになっている。

32才にして始めて飛行機に乗った。死ぬかもと思った。五日後に全日空のハイジャック。合掌

〒177 東京都練馬区石神井町三の十七の四  
TEL 03 (3996) 2064  
FAX 03 (3997) 8117

順 正 寺